

事業計画書(令和6/2024年度)

市民団体光が丘プレーパーク

(2024年4月17日作成)

1. 団体概要

フリガナ	シミンダンタイ ヒカリガオカ プレーパーク
団体名	市民団体光が丘プレーパーク
団体の 設立目的	子どもののびやかで自分らしい成長を応援し喜びあえる社会の実現を目指して、 1. 子どもが遊びを通して心を開放できる遊び場をつくること、 2. 遊び場に集まる子どもや大人にとって、家・学校・職場とは別の安心できる居場所となること、 3. 遊び場に集まる子どもや大人と協働しながら活動を継続していくこと、 に取り組むことを目的とし設立。
構成員数	6人
活動場所	都立光が丘公園(芝生広場南側 旭町入り口付近)
団体の 設立経緯	光が丘プレーパークで子どもを遊ばせてきた地域の保護者による団体。 将来に渡る光が丘プレーパークの継続的な開催のため、従来開催してきたNPO法人PLAYTANKの活動の一部を担うことが必要と発足。 光が丘プレーパークは令和5年4月よりNPO法人PLAYTANKと私たち市民団体との共催となり、市民団体は開催時の利用案内や、イベントの企画・実施等を担う。

2. 団体の活動歴

活動歴	0 年	設立時期	R5(2023) 年	10 月設立
団体の 主な活動実績	なし <参考> 令和5年度の光が丘プレーパークの来場者実績 ・のべ9672名来場 ・開催数55回 ・来場者1日平均176名 (乳幼児54人・小学生51人・中学生以上子ども2人・大人70人)			
昨年度の財政	収入 0万円			
	支出 0万円			

3. 令和6年度の主な活動内容と実施スケジュール

令和6年度は、主に以下の3種類の活動を行う予定としている。

- ▷3-1. 通年、毎週日曜に開催を予定するもの
- ▷3-2. 光が丘プレーパーク開催時にあわせ、開催を予定するもの(通年)
- ▷3-3. 光が丘プレーパーク開催時にあわせ、開催を予定するもの(特別イベント)

▷3-1. 通年、毎週日曜に開催を予定するもの

①活動におけるポイント

特に結びつきが強い設立目的:1, 2, 3

わたし達がNPO法人PLAYTANKと共催する光が丘プレーパークは、光が丘公園という広大な敷地を持ち多様な植物・生物が息づく自然豊かな環境下で開催できるという圧倒的な環境メリットがあります。

この多様な環境の可能性を生かし切れるよう、NPO法人PLAYTANKのプレーリーダーと協力して、子ども達が外遊びを心のままに満喫できるように見守るとともに、新しいひらめきや発見が自然発生するような道具の選定や環境設定等の配慮を行い、子ども達にとって豊かな体験ができる場所を目指します。

従来の開催の問題点として、どなたでも参加できる開かれたあそび場であるのに、「限られた人たちが遊べるあそび場だと思われる」、「登録制・会費制と思われる」といった分かりづらさ、入りにくさが指摘されています。

また、光が丘プレーパークに遊びに来る小学生低学年までの子どもの多くは保護者とともに来場するのに対し、保護者・大人が場に馴染むための働きかけが少ないという指摘もあります。子どものためだけの遊び場では大人は手持ち無沙汰になったり、居心地が悪く過ごしたりしがちで、結果として親子ともに遊び場から遠ざかることとなります。何より、多くの大人と袖触れ合う環境で見守られて過ごすことは、子どもたちにとって幅広い社会性を身につける機会でもあることから、保護者に限らず、公園に立ち寄る地域の大人も一緒に子どもたちの遊びを嬉しく見守れる環境が望ましいと考えます。

これら問題点の改善のため、今年度の開催では、掲示・配布物、案内の声掛け等の改善を行います。

②内容とスケジュール

活動項目	内容とスケジュール	活動日数	対象及び 想定人数
光が丘プレーパーク (4月～6月)	木・土・坂道があり、たき火もできる環境を活かし、火遊びや穴掘り、木登り、など、自然の中で子どもたちが自由に生み出しながら遊ぶあそびを行う。 加えて、4～6月ではこどもの日、七夕など季節行事に関連した工作を充実させる。	11日	子どものべ 1100人
光が丘プレーパーク (7月～9月)	木・土・坂道があり、たき火もできる環境を活かし、火遊びや穴掘り、木登り、など、自然の中で子どもたちが自由に生み出しながら遊ぶあそびを行う。 過去の7～9月の開催でブームになった水かけ合戦、土投げ合戦、ドラム缶風呂、ろくろを使つての土器づくりも楽しめるように場を整える。	12日	子どものべ 1200人
光が丘プレーパーク (10月～12月)	木・土・坂道があり、たき火もできる環境を活かし、火遊びや穴掘り、木登り、など、自然の中で子どもたちが自由に生み出しながら遊ぶあそびを行う。 過去の10～12月の開催でブームになった火付け体験、染め物、ハロウィン仮装、落ち葉投げ合戦も楽しめるように場を整える。	13日	子どものべ 1300人
光が丘プレーパーク (1月～3月)	木・土・坂道があり、たき火もできる環境を活かし、火遊びや穴掘り、木登り、など、自然の中で子どもたちが自由に生み出しながら遊ぶあそびを行う。 過去の1～3月の開催でブームになったたき火、木工、氷づくりも楽しめるように場を整える。	19日	子どものべ 1900人

▷3-2. 光が丘プレーパーク開催時にあわせ、開催を予定するもの(通年)

①活動におけるポイント

特に結びつきが強い設立目的:2, 3(大人に焦点)

緑豊かな光が丘公園内で開催され、子どもの外遊びの場として機能している光が丘プレーパークのエリア内に、子どもの遊ぶ様子を視界に入れながら居られる大人の居場所「プレパカフェ」を据えて、保護者に子どもから少しだけ離れて一息つける機会とともに大人同士の社交的な交流が生まれる場を提供することで、子どもに接する大人が心のゆとりを取り戻せ、顔見知りの輪を広げ、地域社会への参加への足がかりを得られるようにする。

②内容とスケジュール

活動項目	内容とスケジュール	活動回数	対象及び 想定人数
プレパカフェ (4月～3月)	毎週日曜日、光が丘プレーパーク開催時間内にプレパカフェを準備、開催、片付け (光が丘プレーパーク開催時に限る) 光が丘プレーパーク内の、夏は木陰、冬は焚き火近くなど居心地のよい場所を選択する。 活動開催中はボランティアスタッフ又は本活動の実施体制として申請している者の一人以上がスタッフとして場を整える役を担う。	40日	光が丘プレーパークに遊びに来た保護者、大人のべ1000人

▷3-3. 光が丘プレーパーク開催時にあわせ、開催を予定するもの(特別イベント)

①活動におけるポイント

特に結びつきが強い設立目的:1

子どもたちの興味を引くような魅力的な遊びプログラムを開けた外遊びの場で開催することで、子どもたちにとって普段の遊びとは違った遊びに参加したり、参加しなくても掲示を見たり外から眺めたり、または、興味がなくても「なにか変なことやってる」様子が自然と目に映る機会となり、ひいては子どもたちが世界を広げたり、物事への認識の解像度を高めることにつながる。

条件の許す限り、できるだけ境界線を設けないようにしたり、同じイベントを複数回開催する等の工夫により、子どもたちの「なんか楽しそうだからやりたい」「前やってたのが気になっていたんだ」「他の子がやってるのを見て何が起きるかは把握した。ちょっとやってみてもいい」「今回はこれだけやってみようかな」といった挑戦の気持ちを実行に移せるチャンスを多く提供できるようにする。

②内容とスケジュール

活動項目	内容とスケジュール	活動日数	対象及び 想定人数
焚き火であそぼう (5月,6月 , 7月,8月,9月 , 10月,11月,12月 , 1月,2月) ※12月は2回開催 を予定	火は人間にとって太古の昔から今に至るまで身近な自然現象で、危険もありますが、知ることによって正しくおそれ安全に扱うことができるようになるものです。しかし近年では安全性の配慮もあり、火は多くの場合子どもたちから遠ざけられています。 本活動では、子どもたちが自分たちで自然豊かな公園内で薪の調達・火起こしと維持・熱を利用したものづくりを行い、燃える火の美しさ・熱・匂い・面白さ・危険性や安全管理を体感させるとともに、自然への興味・関心を養います。 <ポイント> 1. 「火」で燃えるものの探索 2. 「火」を起こし体感する 3. 「火」でつくる	11回	子どものべ 165名

活動項目	内容とスケジュール	活動日数	対象及び 想定人数
生き物を探しに出 かけよう (5月 , 7月, 8月, 9月 , 10月)	自然の中の匂い、虫の鳴き声や飛ぶ音、 生き物を目で見て探し出すこと、生き物 に触れたときの感触、林の中を歩く感覚 などが得られ、自然を五感で感じること ができる。 自然の中で暮らす様々な生き物を観察 することで季節を感じる心を育てること。 また、自ら頑張って捕まえた生き物を大切 に想い、環境をととのえて観察すること で、生命を考える貴重な機会となること。 生き物の特性を覚えて、虫取り網の 使い方や、素手での捕まえ方を工夫し、 生き物によって違う捕獲方法を学んでい くことで、自分だけの捕まえ方を考え出 せるようになること。 <ポイント> 1. 季節によって、見つけられる生き 物と、よくいる場所、時間帯を説 明する。 2. 生き物を探す。観察する。さわる。 捕まえる。 3. 観察のための環境をつくる	5回	子どものべ 75名 大人のべ 25名

活動項目	内容とスケジュール	活動日数	対象及び 想定人数
砂を固めて、けずる！彫る！砂像をつくろう (5月, 6月, 7月, 8月, 9月, 10月, 11月, 12月)	本企画では、砂と水の性質を知り、状態の変化を予測し試して確認することで、身近な自然物での創作アプローチを学ぶことができる。イメージを形にする過程では、起きる事態に臨機応変に対処してやり抜く力や能動的な学びの力を育むことができる。また、大きな砂像を協同で作る時には、イメージの共有や役割分担などのコミュニケーションから参加者同士の交流が生まれ発展する。 自由に創造する楽しさと、自己表現を肯定的に捉えられる経験を得られる機会としたい。 <ポイント> 1. 砂のかたまりをつくる 2. 道具を使って、削る、彫る 3. 作品の見せあい	8回	子どものべ 160名
どんないろになるかな？草木染めをやってみよう！ (5月, 9月, 11月, 2月)	身近にある植物を用いて染色する事で、違った視点から植物を捉える。染色の回数や時間、媒染の種類や濃さによって化学反応により染めあがりが変化する様子を楽しむ。また、草木染めや絞り染めは日本の伝統的な染色技法であり、これを学ぶことで日本の文化や伝統に触れることができる。 そして、汚れたり色褪せたりしてしまった古着や雑貨を新たな色合いで染め直すことで、愛着を持ち、長く使うことができることを体感する。 <ポイント> 1. 草花を探す・染液作り 2. 模様作り 3. 媒染する・作品を見せ合う	4回	子どものべ 60名

活動項目	内容とスケジュール	活動日数	対象及び 想定人数
マイ箸マイスプーン 落ち葉クラフト (6月 , 7月, 8月 , 10月, 12月)	木材加工や落ち葉アートを通じて、子ども達がものづくりの楽しさや創造性を育み、手先の器用さや集中力を養いながら、自然や環境への理解を深め、地域への関心や愛着を育み、異年齢や異文化交流の機会を通して、協調性を育む。 <ポイント> 1. イメージとデザイン 2. 木材・葉の加工 3. 作品の完成と観察	5回	子どものべ 75名 大人のべ 25名
和太鼓をたたこう！ (年度内に4回開催 を予定)	和太鼓をたたく体験には次のようなねらいがある。 1) 太鼓を習う一対一の関係の礼儀作法や、他の参加者と協力し演奏する際のコミュニケーションや協調性を学ぶ。 2) 普段経験しない楽器であるため、未知のことへ取り組む意欲を持ち、積極的に学ぶ姿勢を育む。 3) 太鼓を力いっぱいたたく運動とその深い響きには、心身をリラックスさせる効果があり、柔らかな気持ちで互いを認め合う場を作り出し、ありのままの自分を肯定する感覚を得る。 <ポイント> 1. 講師による取り扱いの説明、演武 2. 参加者の和太鼓体験 3. 全員で演奏	4回	子どものべ 40名 大人のべ 20名

活動項目	内容とスケジュール	活動日数	対象及び 想定人数
みんなでつくるへんてこストーリー！ 布芝居の世界に飛び込もう (9月、10月、11月、12月)	子ども達は集団生活の中で、自然と「正解」を表現するように適応していく。 本企画では、布しばいに熟達したヘブンアーティストが展開する「表現遊びの場」を設け、フィクションの中に誘い込まれた子ども達が、自由に自ら思い描く世界を語り、奔放に表現を発露する機会とする。 さらに、一人のアイディアが、連鎖反应的に他の子供達にひらめきをもたらし、布しばいのストーリーがどんどん突飛でへんてこなものになっていくおかしさと、それに参加する楽しさ、世界観を共有する喜びを体感できる場としたい。 <ポイント> 1. ストーリーをつくる 2. なりきり遊びをする 3. パフォーマンスをする	4回	子どものべ 60名
もち米蒸して、プレーパークでもちつき大会！ (1月) ※本企画は特に食品を扱うこともあり、開催実行するしないを含め調整中	日本の伝統行事を体験して、もちつきの文化を五感で楽しみ、学ぶ。 つきて、かえしての周囲の掛け声で、互いがコミュニケーションを取ることで、うまくもちがつき上がっていくことを経験し、出来上がったもちを味わい、皆で喜びを感じる。 <ポイント> 1. 蒸したもち米を食べる 2. もちつきをする 3. もちを食べる	1回	子ども 80名 大人 80名

活動項目	内容とスケジュール	活動日数	対象及び 想定人数
こども商店街 (2月末～3月末)	「やりたい!」を形にした店舗が並ぶ「こども商店街」を開催する。 本企画は自店舗だけではなく皆で一つの街を作るもので、全行程(企画、準備、製作、運営、片付け)を子ども達主体で行う。特に木材を用いた建築は、2X4材一本立てるにも複数の子どもの手が必要であり、声の掛け合いや手伝い合いが多く発生する。全段階において、他者のアイデアを見聞きし触る、材料・道具・人手・場所の交渉、相互扶助等が起きる。 子ども達の交流を活発化させ、達成感、自己有用感を得られる企画としたい。 <ポイント> 1. 自分の店計画・街計画 2. 自分の店づくり・街づくり 3. こども商店街開店	12回	子どものべ 450名 大人のべ 100名